

12512

八丈島で採集されたアシタバモシオエビ(新称)

奥野 淳 兒

千葉県立中央博物館：〒260 千葉県千葉市中央区青葉町955-2

Junji OKUNO:

Record of a Pontonine Shrimp, *Coralliocaris viridis*
Bruce, 1974, from Hachijo-Jima Island, Japan.

八丈島で採集されたアシタバモシオエビ(新称)

奥野 淳 兒

千葉県立中央博物館: 〒260 千葉県千葉市中央区青葉町955-2

Junji OKUNO:

Record of a Pontoniine Shrimp, *Coralliocaris viridis*
Bruce, 1974, from Hachijo-Jima Island, Japan.

はじめに

テナガエビ科カクレエビ亜科のモシオエビ属 *Coralliocaris* Stimpson はイシサンゴ目ミドリイシ属の枝間で共生生活をするコエビ類で、インド・太平洋産の8種が含まれる (Chace and Bruce, 1993). わが国からはそのうちモシオエビ *C. superba* (Dana), クサイロモシオエビ *C. graminea* (Dana), ウスクサモシオエビ *C. nudirostris* (Heller), *C. venusta* Kemp および *C. viridis* Bruce の5種が知られている (三宅, 1982; 亀崎ら, 1988).

著者は1990年以来標本に基づいた八丈島産コエビ類相の調査を継続しているが、1994年9月に同島の神湊港に生息するミドリイシ属の1種 *Acropora* sp. から *C. viridis* の抱卵雌5個体を採集した。本種は Bruce (1974) によりケニアのモンバサ島産の標本に基づいて新種記載され、その後インド・西太平洋の熱帯域各地から報告されている (Chace and Bruce, 1993). しかし、わが国からの記録は、Bruce (1974) が Kubo (1940) によって *C. graminea* に同定された標本の記載と図を検討し、奄美大島を本種の分布に加えているものだけである。従って、八丈島産の標本は、*C. viridis* と認識された標本から本邦沿岸における本種の分布が確認された初めての例であり、同時に分布の北限記録となる。さらに、本種には和名が与えられていなかったことから、本報告において新称を提唱するため、基準となるこの度の標本を以下に記載・報告する。

材料および方法

今回調べた標本はスキューバ潜水によるタモ網採集で得られた。標本は10%フォルマリンで固定したのち保存液を70%エチルアルコールに交換した。計数形質および体各部の計測は双眼実体顕微鏡下で行った。体各部の名称は概ね林 (1987) に従ったが、第1および第2胸脚の掌部と指節は併せて鋏部として扱った。標本は千葉県立中央博物館甲殻類資料 (CBM-ZC) として登録・保管されている。

種の記載

アシタバモシオエビ(新称)

Coralliocaris viridis Bruce, 1974

(Fig. 1)

調査標本。— 1抱卵雌(頭胸甲長3.0mm, CBM-ZC2165), 1抱卵雌(頭胸甲長2.8mm, CBM-ZC2166), 3抱卵雌(頭胸甲長2.7~2.9mm, CBM-ZC2167), 以上すべて八丈島神湊港, 水深3m, ミドリイシ属の1種に共生, 1994年9月6日, 奥野淳兒・加藤昌一採集。

記載。— 体は著しく縦偏する。頭胸甲の表面は滑らかで、隆起や溝を欠く。前縁には前方を向く鋭い触角上棘を有する。前側角部はまるい。眼上棘および肝上棘はない。

額角の基部は側方に広がり、先端部はまっすぐで、角膜の前縁を著しく越え、触角鱗の2/3に届く。先端から眼窩後縁までの額角長は頭胸甲長の0.8~1.0倍で、上縁には先端1/3に低い4歯を備え、下縁には先端のやや後方に小さな1歯を有する。

第1触角柄部は額角とほぼ同じ長さで、触角鱗の2/3に届く。基節外縁の先端に備わる棘は鋭く、

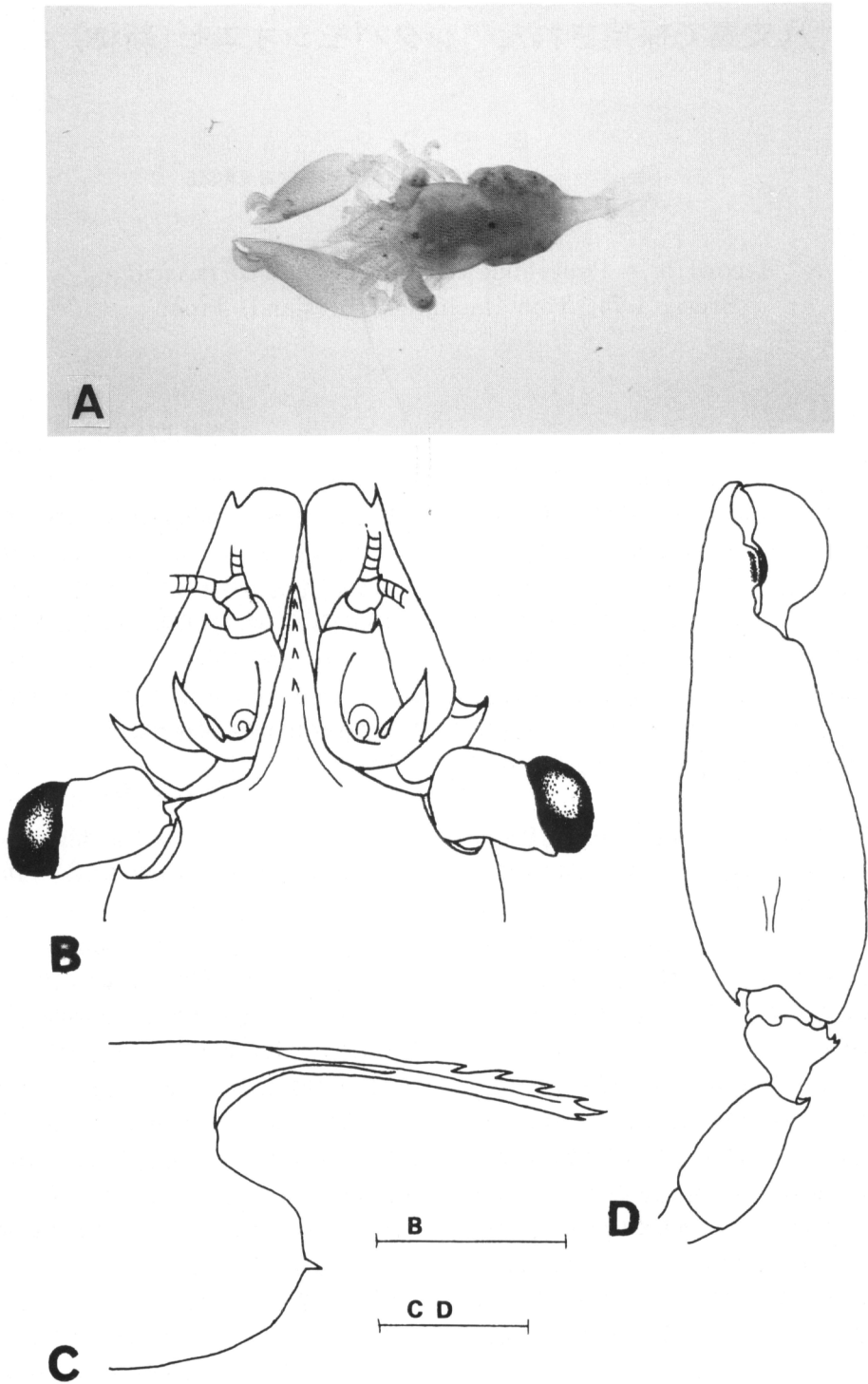


Fig. 1. アシタバモシオエビ *Coralliocaris viridis* Bruce, 1974. A, 抱卵雌(頭胸甲長2.8 mm, CBM-ZC2166); B-D, 抱卵雌(頭胸甲長3.0 mm, CBM-ZC2165). A, 全形(背面), 鮮時の色彩を示す; B, 頭胸甲前部と頭部付属肢(背面); C, 頭胸甲前部と額角(側面); D, 第2胸脚(背面). 目盛りは B, D = 2 mm, C = 1 mm.

中央節の先端縁に達する。触角棘は鋭く、基節の2/3に達する。

第2触角の触角鱗はよく発達し、頭胸甲長の0.9~1.0倍。外縁の末端には薄板の先端かそのやや後方に届く鋭い1棘がある。

第3顎脚は触角鱗の中央に届く。末端節は頭胸甲長の0.2倍、腕節の1.4~1.7倍で、剛毛が一様に密生する。腕節は短く、頭胸甲の0.1倍。

第1胸脚は鋏脚で、腕節の中央で触角鱗を越す。鋏部は頭胸甲長の0.3~0.4倍。腕節は細長く、頭胸甲長の0.6~0.7倍、鋏部の1.5~1.8倍。

第2胸脚はよく発達した鋏脚で、第1胸脚に比べて著しく強大である。左右の大きさはやや不相称で、鋏部の基部で触角鱗を越える。鋏部は頭胸甲長の2.0~2.2倍、腕節の6.6~8.0倍で、可動指の先端部外縁は著しくまろく、末端は鉤爪状を呈し、内側に湾曲する。可動指の内縁の中央部には細長い穴がある。不動指の末端も鉤爪状で、内側に湾曲し、同指内縁の中央には板状の突起があり、両指を閉じたときに可動指の穴に納まる。腕節は短く、頭胸甲長の0.3倍で、背面は末端縁の外縁に鋭い3~4小棘を有し、腹面は末端縁の内外角にそれぞれ鋭い1棘を備える。

第3~第5胸脚は互いに酷似する。前節の外縁には一様にまばらな剛毛が備わり、内縁の先端には短い剛毛が密生する。指節は湾曲し、下縁の基部には湾曲した鉤爪状の鋭い1棘をもつ。第3胸脚は前節の先端やや後方で触角鱗を越える。第4胸脚は触角鱗の先端に達する。第5胸脚は触角鱗の中央をやや越える。

色彩。一体の地色は白味を帯びた透明で、頭胸甲ならびに第1~第4腹節には細かい褐色と黄緑色の色素胞が密生し、第5および第6腹節、尾節ならびに尾肢には淡褐色の色素胞が散在する。第1触角柄部および第2触角の触角鱗には淡灰色の色素胞がやや密生する。第1触角の平衡胞は黒い。胸脚はまばらな黄緑色の色素胞に覆われ、第2胸脚の両指先端および第3~第5胸脚の指節は黄色い。

分布。— 模式産地はケニア、モンバサ島(Bruce, 1974)。アフリカ東岸からグレートバリアリーフ南部までのインド・西太平洋の熱帯域に広く分布し、ミドリイシ科のイシサンゴ類に共生する

(Chace and Bruce, 1993)。本邦では奄美大島(Kubo, 1940; *C. graminea* として)および八丈島(本報告)から知られているのみである。

備考。— 今回調べた標本は、額角の上縁に備わる歯が低いこと、額角が角膜の先端を著しく越えること、ならびに生時の頭胸甲と腹節の地色が透明で、密生した細かい褐色と黄緑色の色素胞で覆われることにより、Bruce(1974)による本種の本記載ならびに、およびChace and Bruce(1993)の記載に一致した。

奄美大島からKubo(1940)によって *C. graminea* として報告された標本は、額角上縁の歯が低いこと、額角長が頭胸甲長の0.8倍であること、および第2胸脚腕節の外縁末端に3小棘を有することで、今回調査した標本と一致したが、図示された雌の個体では額角の上縁に3歯、下縁に2歯を備える点で異なった。しかし、八丈島産の標本との額角歯数における差異は種内変異であると考えられる。生時の色彩は不明であるが、Bruce(1974)が指摘したように、奄美大島産の標本は *C. viridis* であり、これが本種の日本初記録となる。

本種の形態はクサイロモシオエビ *C. graminea* (Dana) に酷似するが、額角上縁の歯の形態、および生時の色彩によって容易に識別される。クサイロモシオエビでは額角の上縁歯は高くて顕著であり、生時の地色は緑色で、多数の細い青色縦線が走る。

また、これら2種に酷似する種として、*C. macrophthalma* (H. Milne Edwards) が知られている。本種は額角上縁に1~2歯を備えることのみで他の2種と区別される(Chace and Bruce, 1994)。Bruce(1977)は *C. macrophthalma* が *C. graminea* の同物異名であることを示唆したが、両種の分類学的関係を明らかにするためには、*C. macrophthalma* の生時の色彩を確認する必要性が高いと考えられる。

本種は比較的最近記載された種であり、古くから知られているクサイロモシオエビに比べて記録は少ない。しかし、Kubo(1940)にみられるように、これまでに *C. graminea* として記録された標本の中には本種が混同されている可能性が高く、両種の正確な分布域を把握するためにはこれまでの標本を再検討する必要がある(Bruce, 1974)。

なお、本種には従来和名が与えられていないため、本種の体色と今回の標本を採集した八丈島の特産物である明日葉にちなみ、アンタバモシオエビの和名を提唱する。

謝 辞

標本の採集に協力して下さった八丈島の加藤昌一氏および標本の撮影に便宜を計って下さった八丈ビジターセンターの古瀬浩史氏に対して深甚の謝意を表す。また、本稿に関して有益なご助言を与えて下さった校閲者らに対して深謝する。

引用文献

- Bruce, A. J. (1974): *Coralliocaris viridis* sp. nov., a preliminary note (Decapoda Natantia, Pontoniinae). *Crustaceana*, 26: 222-224.
- Bruce, A. J. (1977): The possible identity of *Coralliocaris macrophthalmia* (H. Milne Edwards, 1837) (Decapoda Natantia, Pontoniinae). *Crustaceana*, 32: 203-205.
- Chace, F. A. Jr. and A. J. Bruce. (1993): The caridean shrimps (Crustacea: Decapoda)

- of the Albatross Philippine Expedition 1907-1910, part 6: superfamily Palaemonoidea. *Smiths. Contr. Zool.*, (543): i-vii + 1-152.
- 林 健一(1987): 日本産エビ類の分類と生態(34): コエビ類 概説. *海洋と生物*, 9: 115-119.
- 亀崎直樹, 野村恵一, 浜野龍夫, 御崎 洋(1988): 沖縄海中生物図鑑, 第8巻, 甲殻類(エビ・ヤドカリ). 新星図書出版, 沖縄, 232pp.
- Kubo, I. (1940): Studies on Japanese Palaemonid shrimps. II. Pontoniinae. *J. Imp. Fish. Inst.*, 34: 31-75.
- 三宅貞祥(1982): 原色日本大型甲殻類図鑑(I). 保育社, 大阪, 261pp, 56pls.

Abstract

Five ovigerous females of *Coralliocaris viridis* Bruce, 1974, were collected from Kaminato Harbor, Hachijo-jima Island, Izu Islands, Japan. They were associated with a scleractinian coral, *Acropora* sp. These specimens represent the second record of the species from Japanese waters and the northernmost point of its known range.